



患者さん向け情報シート

髄膜炎菌性疾患：重要事項

髄膜炎や敗血症を引き起こす重篤な感染を予防するため、11歳から18歳の青年には予防接種が推奨されます。

髄膜炎菌性疾患とは何ですか。

髄膜炎菌性疾患は、髄膜炎菌と呼ばれる細菌によって引き起こされる感染症です。この感染症は、ほとんどの場合、脳や脊髄の内側の重篤な腫脹（髄膜炎）、または血流の感染（敗血症）を引き起こします。また、関節炎や肺炎など比較的軽度の疾患を引き起こす場合もあります。髄膜炎菌性疾患の発生件数は毎年変動します。1998年から2007年の間には、毎年およそ1,500人の米国人が感染しました。

青年や若年成人の方が感染しやすいですか？

はい。特に青年や若年成人は、死に至る可能性のあるこの疾患にかかりやすいと言えます。実際、全症例の15%近くが青年および若年成人の間で発生しており、死亡率は約10～14%です。

髄膜炎菌性疾患は重篤な疾患ですか。

髄膜炎菌性疾患は非常に重篤な疾患です。一般集団において、この疾患に感染した約9人に1人が、適切な処置を受けたにもかかわらず死亡しています。青年および若年成人の間の死亡リスクはさらに高く、ほぼ7人に1人が死亡しています。さらに、生存者の5人に1人が、脳障害、難聴、四肢切断などの後遺症を残します。

髄膜炎菌性疾患はどのように伝染しますか。

髄膜炎菌は、咳やくしゃみ、または感染者の鼻咽頭部からの分泌液に直接接触する（例：キスを介して）ことによって伝染します。

髄膜炎菌性疾患の症状にはどのようなものがありますか。

髄膜炎菌性疾患の初期症状には、発熱、頭痛、身体の痛み、頸部の硬直などがあります。これらの初期症状は軽く、風邪やインフルエンザのようなウイルス性疾患の症状に似ているため、治療を受けるのが遅くなる人も珍しくありません。しかし、症状は急速に進行し、健康な青年でも48時間以内に死亡する可能性があります。このため、直ちに医療処置を受けることが重要です。他の症状としては、吐き気、嘔吐、困惑、眠気、発疹（通常、濃い紫色の斑点が手足に見られる）が現れたり、光に敏感になる場合があります。



業界をリードするヘルスケア関連団体の協力を得て、全米感染症財団（National Foundation for Infectious Diseases）が提供する公教育イニシアチブです。このプログラムの目標は、疾病予防管理センター（Centers for Disease Control and Prevention）によるサポートを受けています。詳細および協賛団体のリスト、ならびにその他の資料については、<http://stopmeningitis.nfidinitiatives.org>をご覧ください。

ワクチンの接種を受ける必要があるのは誰ですか。

米国の保健機関は、11歳から18歳の青年全員に対し予防接種を受けることを推奨しており、11~12歳の検診時での接種が理想的とされています。この年齢層以外の人でも、髄膜炎菌性疾患に感染するリスクが高い場合は、予防接種を受けるべきです。

接種は何回受ければよいのでしょうか。

ほとんどの人は1回接種ですが、感染のリスクが高い場合は3~5年後に再度予防接種を受ける必要がある場合があります。ハイリスク者についての詳細は、かかりつけの医療機関にお問い合わせください。

青年と若年成人に予防接種が推奨される理由は何ですか。

長期間にわたる、大規模なグループ内での近接性（例：寮、泊りがけのキャンプ）や喫煙（間接喫煙も含む）などの生活様式の要因が原因で、青年および若年成人がこの疾患にかかるリスクは高くなります。

予防接種によって髄膜炎菌性疾患を防ぐことができますか。

ワクチンは、5つの最も一般的な髄膜炎菌のタイプのうち、4つのタイプ（A、C、YおよびW-135型と呼ばれる）を予防します。青年および若年成人の症例のほとんどは、これら4つのタイプによって引き起こされています。現在、米国ではB型を予防するワクチンはありません。このタイプは乳幼児の間で最もよく見られますが、青年や若年成人に対して疾患を引き起こす場合もあります。

予防接種は効果的ですか。

はい。結合型髄膜炎菌ワクチンは、子供、青年、および成人（2歳~55歳）に使用することができ、青年と若年成人の間のほとんどすべての臨床疾患を引き起こす髄膜炎菌の5つのタイプ（血清型）のうち、4つのタイプを予防します。56歳以上の感染リスク者に対して、および結合型ワクチンを入手できない場合に利用できる別のタイプのワクチン（多糖体ワクチンと呼ばれる）もあります。このワクチンは、同じ4つの型を予防します。

髄膜炎菌の予防接種は安全ですか。

はい。髄膜炎菌の予防接種は安全です。すべてのワクチンと同じように、注射部位の痛みや赤み、頭痛、疲労感、またはかすかな不快感のような軽度な副作用がある場合があります。このワクチンは、多くの子供が11~12歳の青年期検診で接種を受ける百日咳ブースターと同時に接種することができます。

予防接種を推奨しているのは誰ですか。

疾病予防管理センター（Centers for Disease Control and Prevention）は、11歳から18歳の青年全員に対して、髄膜炎菌の予防接種を推奨しています。

詳細はどこで入手できますか。

髄膜炎菌性疾患および予防接種の利点に関する詳細をご希望の場合は、かかりつけの医療機関にご相談ください。髄膜炎菌性疾患および予防接種の利点に関する情報は、以下のウェブサイトでご覧いただけます。

米国小児科学会 (American Academy of Pediatrics)
www.aap.org

米国家庭医学会 (American Academy of Family Physicians)
www.aafp.org

米国大学保健協会 (American College Health Association)
www.acha.org

米国内科学会 (American College of Physicians)
www.acponline.org

米国医師会 (American Medical Association)
www.ama-assn.org

疾病予防管理センター (Centers for Disease Control and Prevention)
www.cdc.gov
www.cdc.gov/vaccines/vpd-vac/mening/vac-mening-fs.htm

全米感染症財団 (National Foundation for Infectious Diseases) 青年予防接種ウェブサイト
www.adolescentvaccination.org

青年保健医療学会 (Society for Adolescent Health and Medicine)
www.adolescenthealth.org

全米髄膜炎協会 (National Meningitis Association)
www.nmaus.org



業界をリードするヘルスケア関連団体の協力を得て、全米感染症財団 (National Foundation for Infectious Diseases) が提供する公教育イニシアチブです。このプログラムの目標は、疾病予防管理センター (Centers for Disease Control and Prevention) によるサポートを受けています。詳細および協賛団体のリスト、ならびにその他の資料については、<http://stopmeningitis.nfidinitiatives.org>をご覧ください。